

# 産業建設常任委員会意見交換会報告

令和元年12月20日（金）

去る11月28日開催の白山市観光連盟との意見交換会について、その概要を報告します。当日は、白山市観光連盟の村山理事長を初め、役員の方8名の出席をいただきました。

今回は、「白山市の観光戦略について」をテーマとして、意見交換を行いました。その主な意見について述べさせていただきます。

初めに、白山市の観光に関する現状と課題についてです。

白山市内には、白山を初め多くの観光拠点と観光資源が存在しているが、今後新しい観光資源の掘り起こしや、さらなる魅力向上を図る必要があります。そういった観点から、現在、検討されている北陸新幹線白山総合車両所のビジターセンター構想に期待をしているとの御意見がありました。

誘客に効果が出ている事例としては、鶴来まちづくり協議会による「こびとづかんの町

つるぎ」事業で、こびとを探しに来る子供連れやグッズを求める外国人観光客が鶴来を訪れており、今後は観光連盟も連携しながら、エリアを少しずつでも広げていければという御意見がありました。

次に、白山手取川ジオパークを活かした観光戦略についてです。

観光連盟は、白山手取川ジオパーク推進協議会と連携し、ジオパーク公認観光ガイド養成講座を開催していますが、現在14名いる公認ガイドが余り活用されていないようなので、もっと売り出していくべきだとの御意見がありました。

また、特に松任地域でジオパークが浸透していないので、松任にもジオのよい素材があるのだから、もっと市民や店舗に働きかけをし、知ってもらう必要があるのではないかと御意見がありました。

委員からは、現在「こびとづかん」は地域限定なので、ジオパークのテーマである「水の旅」や「醸造のまち」など食べ物にも絡めて、

市全体で観光PRを行うことも一つの方法ではないかとの意見がありました。

次に、日本版DMO法人登録による効果と今後の事業展開についてです。

観光連盟はDMO法人として、観光資源の多言語化、世界的競争力のある観光地域のためのコンテンツづくり、新たな体験型ツアーの開発など、国・県との連携事業を行っています。

しかし、観光戦略を構築して、戦術に落とし込むという肝心なところが弱く、積極的なプロモーションの推進による観光振興を図るためには、観光に関わる人材の育成と確保、並びに民間及び行政による観光連盟へのさらなるバックアップが必要であり、このことを観光連盟として真剣に考える時期に来ているとの御意見がありました。

委員からは、観光連盟がやらなければならないこと、市にお願いすること、それぞれを明確にし、いつまでに実施して、どう成果につなげるかということ、一緒に考え、協力していければとの意見がありました。

以上、主な意見を申し上げましたが、白山市への観光誘客、さらに観光による地域づくりには、白山市観光連盟が観光地づくりのかじ取り役として関係者と協同しながら、着実な実施に当たって調整を行っていく役割は大きく、今後その取り組みに大いに期待し、より緊密な連携をしていく必要性を感じたところです。

以上で、意見交換会の報告を終わります。